

「地域文化産業のSDGsを担う創造環境」研究会 第4回

日時： 2022年5月22日(日)13時半から15時

希望者は、15時より美術館展鑑賞

会場： 東京日本橋・三井記念美術館内レクチャールーム及びオンライン (ZOOM)

コロナ対策のため会場の入場制限あり、会場希望者が多数の場合は先着順

演題： 「三井八郎右衛門（北家10代高棟）がこだわった建築と工芸、その保存と活用」

講師： 三井八郎右衛門（建築家、(一社)三井家同族会代表理事、(公財)三井文庫理事、
学校法人北泉学園若葉幼稚園評議員ほか)

講師略歴：

東海大学、Washington University in St. Louis, School of Architecture 大学院を卒業。建築設計事務所 Kohn Pedersen Fox Associates, PC, NY, USA や坂倉建築研究所での勤務を経て、2021年より HMA を開設して現職に至る

コメンテーター： 三井記念美術館清水実学芸部長

コーディネーター： 前田厚子（同志社大学創造経済研究センター）

主催： 同志社大学創造経済研究センター

共催： 認定NPO法人「趣都金澤」東京交流委員会、同志社大学ライフリスク研究センター

参加費：無料

三井11家を束ねる総領家は、三井八郎右衛門の名を代々襲名する。本日は、八郎右衛門ご当主から、幕末に生まれ明治18年（28歳）から昭和8年（76歳）までを総領家として三井財閥を発展させ、隠居後も建築と茶道にこだわる文化人として終戦後の財閥解体を見届けた高棟公が建築・収集した建造物と工芸品の真価、修復保存、活用について、お話しを伺う。具体的には、織田信長弟の有楽斎が京都建仁寺に創建した茶室で明治後期に東京邸に移築された国宝「如庵」、現東京大学の建築学教授として来日したジョサイヤ・コンドル設計の傑作といわれる旧三井家迎賓館・綱町三井別邸で現在は三井グループの迎賓館「綱町三井倶楽部」、京都木屋町の邸宅であった「旧三井家別邸下賀茂」である。何れも国宝あるいは国の重要文化財となり、今日では観光や会員制倶楽部として活用されている。なお美術工芸品に関する詳細は、三井記念美術館の清水学芸部長から補足していただく予定である。

本研究会は、三井家が財閥全盛期に生活空間であった建造物を関東大震災や太平洋戦争からの被災復旧、現建築基準法に基づく耐震補強や寄贈を経て継承される代表的な文化財について、三井家が京都から東京に移った出発点である三井本館（重要文化財）内の三井記念美術館で、ご当主から直接お伺いできる貴重な機会である。

参考資料：

[茶室「如庵」 | 三井広報委員会 \(mitsuipr.com\)](http://mitsuipr.com)

[三井の迎賓館・綱町三井倶楽部 | 三井広報委員会 \(mitsuipr.com\)](http://mitsuipr.com)

[旧三井家下鴨別邸 | 三井広報委員会 \(mitsuipr.com\)](http://mitsuipr.com)